

## <創刊のことば>

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学文学部心理社会学科 公開日: 2010-03-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 栗原, 彬 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10291/8460">http://hdl.handle.net/10291/8460</a>

## 創刊のことば

栗原 彬

『心理社会学研究』は、明治大学文学部心理社会学科の紀要として刊行される。本紀要は学科設立の理念に沿って、「社会へのまなざしと理解をもつ臨床心理学」と「人間の内面への洞察と感受性を備えた臨床社会学」とが交差する場を創造することを目標とする。

私たちはいま、近代化がもたらした大きな社会変動の光と闇に遭遇している。とりわけ経済のグローバル化と新自由主義の政治は、市場原理、競争原理を激化させ、少子化、高齢化、個人化と相俟って、社会的格差の拡大、地域コミュニティの解体、差別と排除の深化、将来の生活への不安を生じさせている。

聞く耳を持ちさえすれば、心の荒廃と社会の荒廃が連動している現場から、密かな呼びかけが聞こえてくる。いじめ、学級崩壊、少年の薬物使用、少年の凶悪犯罪、引きこもり、児童虐待、家庭内暴力、嗜癖行動。また、戦争被害、ジェノサイド、テロ、凶悪犯罪、人身売買、レイプ、慢性的な栄養不良、エイズ、公害病、環境破壊、基地問題、自殺、難民、ホームレス、そして無数の差別と排除。

同時に、私たちは、闇を切り裂くかも知れない萌芽的な希望の灯にも目をとめていきたい。心理相談の現場、教育現場、福祉の現場、そして地域に生まれつつある心理援助活動。また、多様な社会的危機を乗り越えようとする、市民活動、NPO・NGO、地域づくり、環境運動、アドボカシーとガバナンスの活動、自治体の実践にもネットワーク化していきたい。

臨床心理学と臨床社会学は、目の前にいる苦しむ者、受難者への応答可能性、すなわちケア、アシスト、サポートの実践とともに、苦しみと受難を生む心理＝社会構造の分析、理論化、改変の実践から政策や制度のデザインに至るまでの広い射程が求められている。

私たちは、本紀要を通して、トータルな人間へのまなざし、現場への研究の還流、そして自らの権力化への内省ということを大切にしながら、心理社会学研究の未踏の領域を切り拓いていきたい。